

山行報告：谷川連峰 シシゴヤノ頭

【山 域】谷川連峰 足拍子山塊

【ルート】土樽～（蓬沢）シシゴヤノ頭

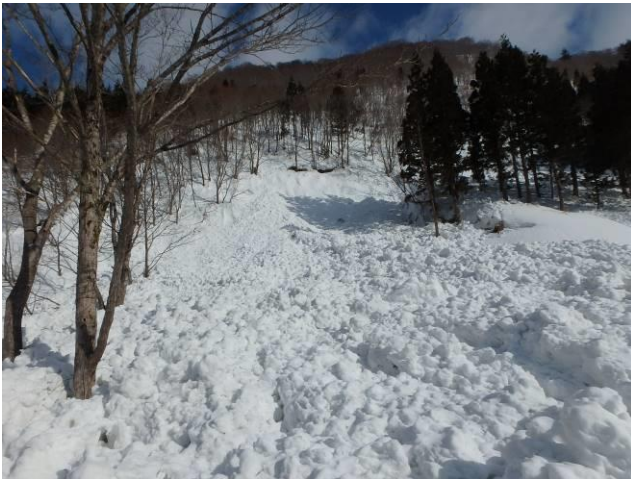
【登山方法】雪山登山

【行動日】4月2日（日） 天候は晴れ

【参加者】CL 柘植、SL 佐藤、吉川（記）

【行 動】千葉 3:30ー穴川 ICー関越道経由ー湯沢 ICー蓬峠登山口駐車点 6:45ーコマノカミ沢出合
8:15ー稜線 10:55ーシシゴヤノ頭 11:36/12:15ーコマノカミ沢出合 14:00ー駐車地点 14:50ー
岩の湯入浴ー関越道経由ー帰葉

【内 容】当初1泊2日で仙ノ倉山北尾根の計画であったが、土曜の天気が思わしくない事とリーダーの都合で、急遽コマノカミの頭を日帰りで行くことになった。トンネルを抜けると天気は良好！土樽駅の先、蓬峠登山口の駐車場を出発して間もなく、除雪終了点の積雪1m位を乗越えツボ足で歩き始める。数年前に登った武能岳西尾根の渡渉点の堰堤が見えてきたが、その時よりも積雪は多いように感じる。蓬新道を詰めて行き、コマノカミ沢出合に近づくにつれ蓬沢右岸のデブリを多く見るようになる。左側が開け、谷の先にコマノカミノ頭と思われる白い剣先が青い空に突き上げている景色が飛び込んできた。



蓬沢右岸のデブリ



コマノカミ沢出合から望むコマノカミノ頭

標高 870m のコマノカミ沢出合に来た。ここで、セツ小屋山を目指すパーティーとシシゴヤノ頭を目指す単独者に会う。ここからコマノカミ沢左岸から尾根に取り付くところだが、尾根から離れて行くトレースを辿っていることに気づき、修正して本来の尾根に取り付いた。膝まで落ち込む雪にワカンを装着してブナの尾根を登る。前方に自然の芸術：巨大雪庇がはっきり見えてきた。





左：武能岳 右：茂倉岳

左：万太郎山 右：仙ノ倉山～平標山

ワカンからアイゼンに替えたが、時々踏み抜いて思うように歩けないが、襲い掛かる巨大な波のような雪底をかわして何とか稜線に立った。



360度の展望は素晴らしい！右の稜線には点々とトレースがシシゴヤノ頭が続いている。我々はここを左へとノートレースの稜線を進みコマノカミノ頭に向かう計画だったが、リーダー判断でシシゴヤノ頭に変更となる。心地よい風を感じながらの雪稜を歩き、シシゴヤノ頭の山頂に立てた。谷川連峰の大展望に絶句です。山々は真っ白です。巻機山の左奥には守門岳/浅草岳も霞んで見えた。山岳同定を楽しみながら大休止！雪も緩み、大きなうねりの雪庇上は緊張するところもあった。そして稜線北斜面の樹氷が陽を浴びて雪面をシャリシャリと谷に滑り落ちていくときは、高度感に身がしまった。



シシゴヤノ頭に向かう稜線



シシゴヤの頭の山頂 その1



シシゴヤノ頭 その2 (背後は巻機山方面)

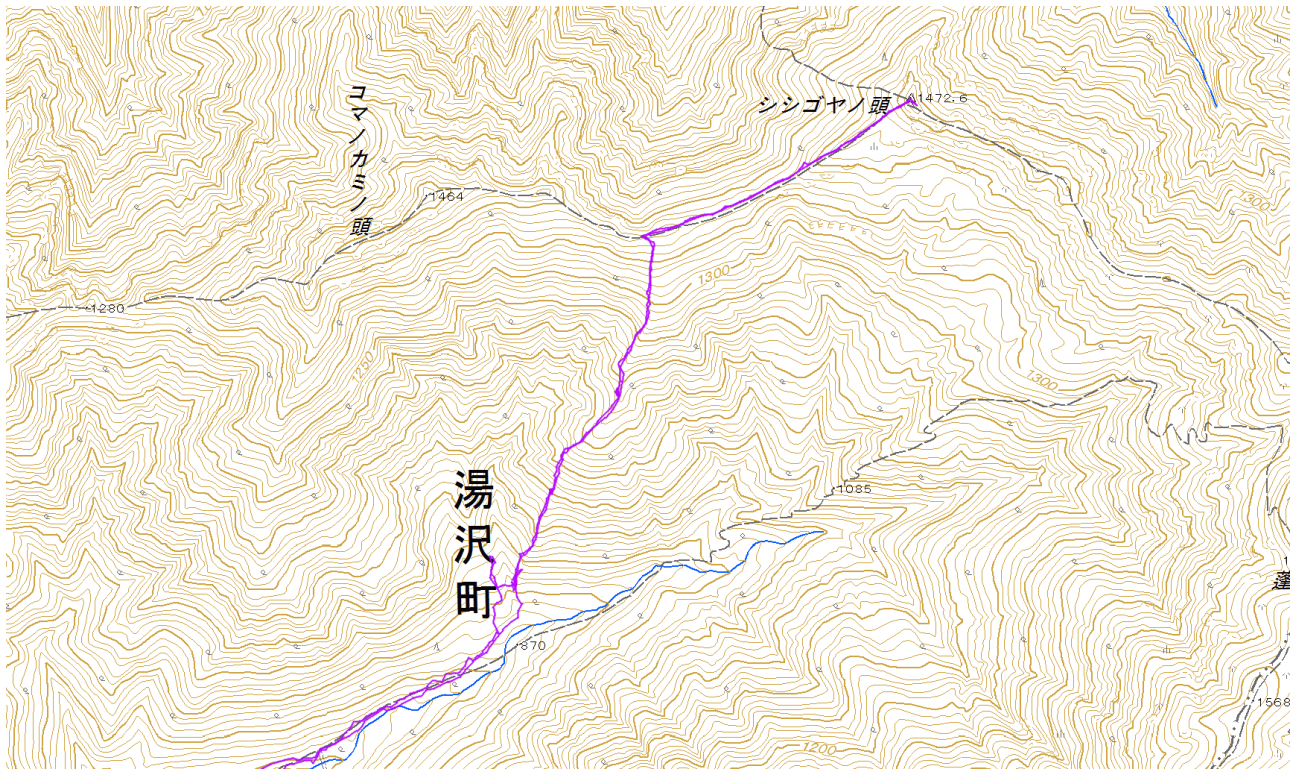


帰路の稜線 (右前方はコマノカミノ頭)

再び雪庇を乗り越えて尾根を下る。登って来た時に増して腐れ雪に足を取られ、ワカンを履いてみても難儀した。佐藤さんのシリセードに続き、時々シリセードを交えようやく蓬沢に下った。蓬沢の水の流れに春を感じ、そしてリーダーは、雪解けの道端にふきのとうを見つけていた。

天気恵まれ、紺碧の空に浮かぶ谷川の山々の景色は素晴らしかった。・・・が、気温が上り、ザクザクながら粘っこい雪質には苦勞した。

GPS ログ



至 土樽駅

山行報告：吉川